

ブドウうどんこ病の発生について

平成27年6月24日
果樹試験場果樹技術普及部

早場産地の大房系ブドウの一部でうどんこ病の発生が見られています。うどんこ病は適度な湿度があり、気温が高めに推移すると発生が多くなります。

現地での発生は果粒、穂軸ともに見られており、病害の拡大を防ぐため、収穫までカサで管理する園や袋かけ前の園では次のような対策を行ってください。



穂軸への発生



果粒への発生

○園内で発生が見られる場合

- ・発生が著しい場合は果房ごと除去する。
- ・数粒の場合は早めに摘粒する。
- ・オンリーワンフロアブル2，000倍（収穫前日まで、3回以内）で防除を行う。なお、薬剤散布では果粒の大きさにより、花粉の溶脱や汚れが心配されるので、慣口等散布方法を注意する。

○発生は見られないが、現在までうどんこ病対象薬剤を使用していない場合

- ・フルーツセイバー1，500倍（収穫7日前まで、3回以内）で防除を行う。
- ・ただし、果粒の大きさにより、花粉の溶脱や汚れが心配される場合は、散布を行わないか、慣口等散布方法を注意する。